

農業の後継者不足を解消する

2年2組 川上 陽菜

2年2組 高山 夏歩

指導者 徳永 彩子

1 課題設定の理由

宇和島市には農業・水産業など自然が近くにある土地を生かした様々な産業が発展している。しかし、現在人口減少や少子高齢化に伴い、農業就業人口の減少や担い手不足が深刻化している。こうした現状を改善したいと思い、本題を設定した。

2 仮説

図1より、愛媛県の総農家数は、平成22年は50,234戸と、5年前と比べると5,634戸減少している。農業就業人口の平均年齢は66.9歳となっており、担い手不足・高齢化が進んでいる。

3 実験と研究の方法

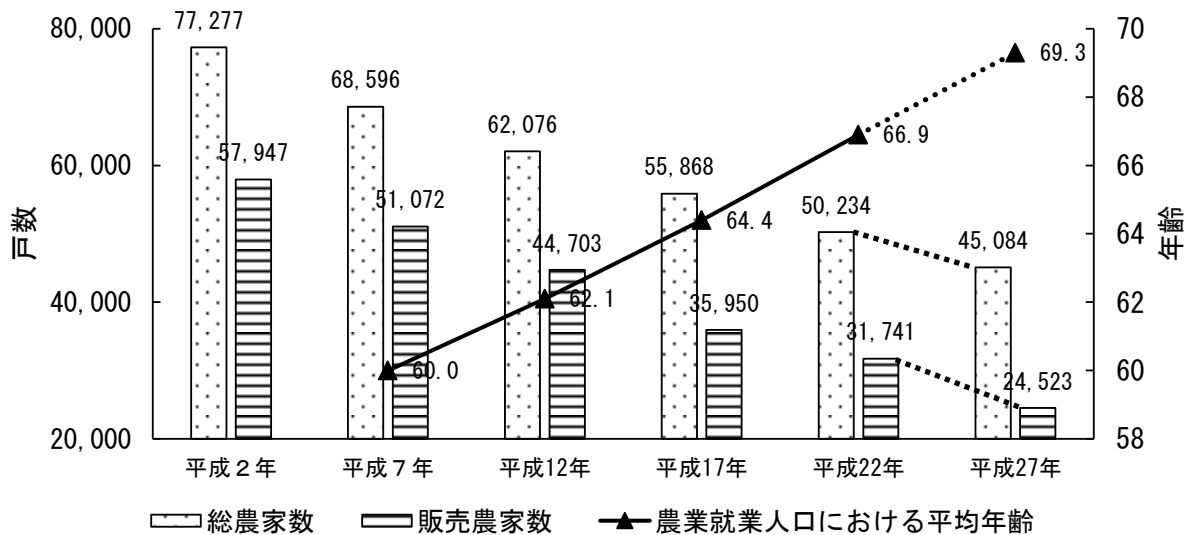


図1 愛媛県の農業の現状（愛媛県庁「人・農地プランおよび関連施策について」より作成）

宇和島東高校の生徒243人に農業体験についてのアンケートを実施した。項目は「農業体験をしたことがある人」、「いつ行ったか」、「どのような経緯で農業体験をしたか」、「どのようなことを経験したか」、「体験を通して農業への関心は深まったか」とする。

4 結果

結果を次のア～オに示す。

ア 農業体験をしたことがある人

201人（全体の82.7%）

イ いつ行ったか（複数回答可）

幼稚園・保育園生 106人

小学生 141人

中学生 60人

高校生 19人

ウ どのような経緯で農業体験をしたか

学校行事、家庭の手伝い、地域の手伝い、職場体験、農業イベント、自然科学教室、部活、観光大使など

エ どのようなことを経験したか

(1) 農作物の栽培

田植え、シイタケ栽培、その他野菜の栽培

(2) 農作物の収穫

稲刈り、サツマイモ・ジャガイモの収穫、みかん狩り、ぶどう狩り、茶摘み、タケノコ掘り

(3) 栽培環境づくり

もみまき、ハウス張り・組み立て、農機の操縦

オ 体験を通して農業への関心は深まったか

深まった 38.3%

どちらかといえば深まった 51.7%

どちらかといえば深まらなかった 3.0%

深まらなかった 7.0%

5 考察

今後、地方の農業を発展させるには次のようなことを進めるべきだと考える。

ア 法人化

法人化とは、法人を設立し組織の中で今までの事業を引き継いでいくこと。次のメリットとデメリットが考えられる。

〈メリット〉

- ・ 設立後2年間消費税を払わなくてよいため節税できる
- ・ 法人しか相手にしない業者と取引の幅が広がる
- ・ 福利厚生が充実し人材が集まる
- ・ 継続性が高まる

〈デメリット〉

- ・ 法人設立費用がかかる 25万～30万円
- ・ 会計簿を付ける必要があり、会計処理が煩雑になる

イ 通勤農業

平日は勤務先の農村に出勤し、休日は市街地の自宅で過ごすスタイルの農業。農業と私生活を完全に分けることで、継続性が高まる。

6 まとめ

農業体験をはじめとして、小さなころから農業を身近な存在にし、地域との接点を増やす。また、現状の農業のスタイルを工夫し、変化させることで田舎の農業を発展させることが後継者不足を解消することにつながると考える。

参考文献

- ・ 「愛媛県庁／人・農地プラン及び関連施策について」

https://www.pref.ehime.jp/h36180/ninaitetaisaku/hito_nouti_plan.html